

青山 幹雄 (正会員)

1980年岡山大学大学院工学研究科修士課程修了。同年富士通(株)入社。1995年より新潟工科大学情報電子工学科教授。ソフトウェア開発方法論、開発プロセスなどに興味を持つ。1993年情報処理学会研究賞受賞。

青沼 英一

1978年東京大学工学部工業化学科卒業。同年富士ゼロックス(株)入社。1989～1992年カナダ・トロントにあるXerox Research Centre of Canadaで勤務。現在に至る。

生駒 順一

1987年NECソフトウェア神戸入社。現在NEC C&Cシステムソフトウェア事業本部フロントオフィスシステム事業部適用技術部主任。

井戸上 彰 (正会員)

昭和59年神戸大学工学部電子工学科卒業。昭和61年同大学院修士課程修了。同年KDD入社。現在(株)KDD研究所高速通信グループ主任研究員。この間、OSIやインターネットなどの通信プロトコルを中心として、ハードウェア/ソフトウェアによるプロトコル実装方式、通信ボード用OS、プロトコル試験、移動網におけるデータ通信などの研究に従事。平成5年本会大会奨励賞、平成10年本会大会優秀賞受賞。電子情報通信学会会員。

植野 直樹 (正会員)

1986年京都大学工学部精密工学研究科修士課程修了。1991年横河ヒューレット・パカード(株)(現日本ヒューレット・パカード(株))入社。著書「オブジェクト・オリエンテッド・開発設計論: The Fusion Method (共訳)」「分散オブジェクトテクノロジー (共訳)」

大谷 和子 (正会員)

(株)日本総合研究所法務部長。法とコンピュータ学会理事。1987年東北大学法学部卒業。日本情報サービス(株)(現(株)日本総合研究所)入社。1996年より現職。

太田 昌孝 (正会員)

昭和34年生。昭和62年東京工業大学総合情報処理センター助手。博士(理学)。コンピュータグラフィックス、UNIX、計算の高速化、文字コード、DNS、マルチキャスト、QoS保証、超高速ルーティング等の研究に従事。

大室 伸

1990年名古屋大学大学院工学研究科修士課程修了。同年日本電信電話(株)入社。以来、高効率音声符号化の研究に従事。NTTサイバースペース研究所研究主任。電子情報通信学会、日本音響学会、IEEE各会員。1994年日本音響学会技術開発賞、1995年電波功績賞郵政大臣賞各受賞。

荻原 雄二 (正会員)

(株)イメージモールドジャパン技術開発部部长。1970年日立製作所入社。同社情報システム事業部で画像処理システム、マルチメディア応用システム、電子百科事典等の開発を経て、1998年10月新会社設立に伴い異動。美術品や写真のデジタルアーカイブ事業の企画・開発に従事。E-mail:ogihara@imagemall.co.jp

尾股 達也

1957年生。1983年相模工業大学情報工学科卒業。富士流通システムエンジニアリング(株)入社。1988年(社)情報サービス産業協会、1998年横浜国立大学大学院経営学修士。1999年現職。

金子 聡 (正会員)

1983年東京理科大学大学院理工学研究科修士課程修了。日本アイ・ビー・エム入社。東京基礎研究所、APソリューション開発を経て、現在、ITS(株)所属。IEEE会員。E-mail:kanekos@jp.ibm.com

金子 孝夫

1979年群馬大学大学院工学研究科修士課程修了。同年日本電信電話公社入社。以来、音声処理用のサンプル値フィルタ、デジタル信号処理プロセッサLSI、音声・音楽の符号化システムの研究に従事。NTTサイバースペース研究所主幹研究員。電子情報通信学会会員。1996年日本音響学会技術開発賞、1997年日経BP社技術賞、1999年電気通信普及財団賞各受賞。

河野 隆一 (正会員)

1957年大阪大学工学研究科(修士)修了。三菱電機、発電運輸を経て1994年(株)インテック代表取締役副社長。現在相談役。情報サービス産業協会2000年問題委員長、西暦2000年問題に関する顧問会議作業部会委員、原子力発電所2000年問題調査委員会委員。

小池 淳 (正会員)

1985年KDD(株)入社。以来、同社研究所にて動画像符号化方式、モデルベース符号化方式の研究、テレビ会議システムの開発、遠隔医療システムの開発、およびそのための画像符号化方式の研究を行う。現在(株)KDD研究所画像通信G主任研究員。

小暮 拓世

昭和37年静岡大・工・電気卒業。同年松下電器産業(株)入社。以来デジタルオーディオ関連、高効率映像音声符号化方式(MPEG-1, 2, 4)の研究開発に従事。現在、同社マルチメディア開発センター常勤顧問。

小森 雅夫

(株)イメージモールドジャパン代表取締役社長。1970年凸版印刷(株)入社。マーケティング部門で商品開発、万博パビリオン・テーマパーク等の企画を担当。1998年10月新会社設立とともに現職。E-mail:komori@imagemall.co.jp

宍戸 周夫

1948年生。1971年上智大学法学部卒業。同年日刊工業新聞社入社。出版局編集長、編集局編集委員。1997年よりフリーランス・ジャーナリスト、テレメディア代表。著書「マイクロソフトの真実」、「データウェアハウス」、「エンタープライズ・コンピューティング」など。

篠浦 文彦

東京理科大学卒業。鐘紡(株)情報システム事業部、英国Magne Networksを経て、日本システムズ(株)製品企画部長。1996～1998年The ATM Forum アジア地域教育WG議長。E-mail:Sumio_Fujita@justsystem.co.jp

渋谷 亮一

1984年静岡大・工学研究科卒業。同年(株)日立製作所入社。1984～1995年、主に通信管理プログラムの開発、または1996年よりワークフロー製品の開発に従事。WfMCテクニカルコミッティ委員。

申 吉浩

1982年東京大学理学部数学科卒業。1984年同大理学系研究科数学専門課程修士課程卒業。1990年同大理学系研究科数学専門課程博士課程修了。同年富士ゼロックス(株)入社。現在に至る。

鈴木 登雄 (正会員)

昭和47年電気通信大学大学院修士課程修了。同年日本ユニシス(株)入社。経営科学、経営管理分野のソフトウェアの開発・適用業務に従事。日本オペレーションズリサーチ学会会員。E-mail:takao.suzuki@unisys.co.jp

白井 貢

日立製作所エンタープライズサーバー事業部生産技術部主任技師。メンバー用セラミックモジュール、プリント基板実装技術の開発に従事。

高田 広章 (正会員)

豊橋技術科学大学情報工学系講師。1988年東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻修士課程修了。同助手を経て、1997年より現職。リアルタイムシステム、組込みシステム、マルチプロセッサシステムに関する研究に従事。ITRON仕様の標準化活動に中心的メンバとして参加。博士(理学)。IEEE、ACM、電子情報通信学会、日本ソフトウェア科学会各会員。

高野みさ子

1975年(株)日立製作所入社。システムエンジニアリング部門を経て、現在、同社情報システム事業部に所属し、事業企画業務に従事。E-mail:mitakano@system.hitachi.co.jp

谷口 秀夫 (正会員)

昭和53年九大・工・電子卒業。昭和55年同大学院修士課程修了。同年日本電信電話公社電気通信研究所入所。昭和63年NTTデータ通信(株)開発本部移籍。平成5年九州大学工学部助教授。平成8年同大学院システム情報科学研究科助教授。博士(工学)。過去に、4つのオペレーティングシステムの研究開発に従事し、そのうち3つは商用化。現在、5つ目のオペレーティングシステム(Tender)の研究開発中。著書「オペレーティングシステム」(昭見堂)。電子情報通信学会、日本ソフトウェア科学会、ACM各会員。

寺下 陽介

1984年日本大学理工学部卒業。同年(株)東芝入社。オフィスコンピュータ、UNIXを中心としたミドルウェアの技術支援と商品企画に従事。1995年よりワークフロー関連技術の技術支援と商品企画を担当。WfMC加入。E-mail:yosuke.terashita@toshiba.co.jp

富山 宏之 (正会員)

平成11年九州大学大学院システム情報科学研究科博士課程修了。博士(工学)。平成8年度より日本学術振興会特別研究員。平成11年4月より日本学術振興会海外特別研究員としてカリフォルニア大学アーバイン校に滞在。

中島 達夫 (正会員)

1961年生。1990年慶應義塾大学理工学研究科博士課程修了。工学博士。同年米国カーネギーメロン大学訪問研究員。1991年獨逸GMD客員研究員。1992年米国カーネギーメロン大学訪問研究員。1993年北陸先端科学技術大学院大学情報科学センター助教授。1998年同大情報科学研究科助教授。現在に至る。1998年ケンブリッジ大学訪問研究員およびAT&Tケンブリッジ研究所リサーチエンジニアとして10カ月間英国に滞在する。分散処理システム一般に興味を持つ。ACM、IEEE、USENIX、日本ソフトウェア科学会各会員。

永田 守男 (正会員)

1971年慶應義塾大学管理工学科卒業。1980年工学博士。1974年同学科助手。講師、助教授を経て1994年同大理工学部管理工学科教授。同大インフォメーションテクノロジーセンター所長兼務。人間、組織、社会と結びつくソフトウェア工学を研究。SFAコンソーシアム座長など。情報技術にかかわる各種委員会でも活動。E-mail:nagata@ae.keio.ac.jp

林 潔 (正会員)

1957年生。1980年東京工業大学工学部情報工学科卒業。同年富士通入社。現在、ネットワークマネジメントシステムの開発に従事。IEEE、電子情報通信学会、人工知能学会各会員。InterBond問合せ先: Tel(044)754-4089 E-mail:interbond@ts.fujitsu.co.jp URL:http://www.fujitsu.co.jp/hypertext/softinfo/pr/InterBond/

速水 治夫 (正会員)

神奈川県立大学情報工学科教授。WfMC 日本支部委員長。1970 年名古屋大学工学部卒業。1972 年同大学院工学研究科修士課程修了。1993 年工学博士。1972～1998 年 NTT にて、メインフレーム、データベースプロセッサ、グループウェアの研究開発に従事。1994～1998 年電気通信大学大学院客員教授。1998 年より現職。1992～1996 年本学会誌編集委員・幹事・主査。1996 年より本会論文誌編集委員。電子情報通信学会会員。

藤田 好也

1990 年 (株) 野村総合研究所入社。金融系アプリケーション開発。1992 年 CASE 関連技術の調査・開発。1995 年 2000 年対応技術支援に携わる。1998 年現職。

前川 徹 (正会員)

1955 年生。名古屋工業大学情報工学科卒業。1978 年通産省入省。機械情報産業局情報政策企画室長、JETRO New York センター産業用電子機器部長を経て、1997 年から情報処理振興事業協会セキュリティセンター所長。

宮原 秀夫 (正会員)

1966 年大阪大学工学部卒業。京大助手、阪大助教授を経て、現在同大学院基礎工学研究科情報数理系専攻教授。

安浦 寛人 (正会員)

昭和 53 年京都大学修士課程修了。同大助手・助教授を経て、平成 3 年より九州大学教授。本会論文賞、坂井記念特別賞および Best Author 賞などを受賞。ICCAD-98 の大会委員長。

吉澤 康文 (正会員)

昭和 42 年東工大卒業。同年日立中央研究所入所。TSS の研究開発に従事。大型計算機用 OS の性能向上、記憶管理の研究開発に従事。OS、モバイルコンピューティングなどに興味。平成 7 年より東京農工大学に勤務。

おひいすらん

情報処理学会で働きはじめて、6 月でちょうど 1 年になります。学会とはどういうものか、ということからはじまり、担当している研究会の仕事まで、やっとこなしてきたという感じです。以前はやはり情報処理関係の会社で、SE をしていました。ですから、コンピュータに向かうことは問題ないのですが、事務仕事というのは初めてなので何かと戸惑うことも多くあります。1 年たとうとしている今、ようやく仕事に慣れてきたように感じます。

ただ、まだ自分が担当していない仕事のことになると、分からないことが多く、これから身を引き締めて仕事に取り組んでいかなければと思います。また、事務局の仕事は人と人との信頼関係で成り立っているところが特に強いと感じました。学会で接する方々に対して常に誠実な態度で望むということを忘れずに仕事をしていきたいと思っています。

話は変わりますが、情報処理学会では会員の方や研究会関係の方との連絡で頻繁にメールを使用しています。最近、メールを介して撒かれる悪質なウィルスを作った犯人が逮捕されたという報道がありました。自宅に、たまたまチェーンメールといわれるものが送られてくることがあり、先日「幸せのコアラ」なるものが送られてきました。シグネチャでコアラが書かれているもので、24 時間以内に 5 人に送ると 99 年が幸せに送れるという内容です。これはかなり出回っているようなのでご存知の方もいらっしゃるのではないのでしょうか。この幸せのコアラは特に害がなかったようですが、もし悪質なものであったらと思うとぞっとします。事務局の仕事ではメールが大切な連絡手段です。自分ばかりでなく関係のある方々にも迷惑をかけることになりますので、覚えのないメールは開かないなど、十分な注意が必要だと思いました。

(渡辺美也子／調査研究担当)

賛助会員入会のおすすめ

本学会では日々発展し続ける情報メディア分野の先駆者として、会員の方々を中心に、学界・官界および産業界のご支援を得て、調査研究、論文発表、国際会議開催などの活動を続けております。

お近くに、入会をご希望の方および企業・団体がおられましたらご紹介ください。

資 格：本会の目的に賛同される方または団体

会 費：1 口 50,000 円／年間 * 何口でも加入可

特 典：

1. 口数に応じて会誌「情報処理」の配布数、研究会登録の優遇制度があります。
2. 全国大会、研究発表会、セミナー、シンポジウムなどに正会員に準じて会員優待で参加できます。
3. 本学会編集図書が会員特価で購入できます。
4. 賛助会員名簿の無料配布、賛助会員名の会誌掲載、ホームページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) 公開。
5. 会誌「情報処理」(約 30,000 部／月) 付録告に人材募集記事が掲載できます。

申込み、詳しい内容など詳細につきましては下記にご連絡ください。

照 会 先 (社) 情報処理学会 会員担当

会員の広場



今月号は2月号に関して寄せられた声を中心に紹介します。まずは、特集「マルチメディア符号化技術の動向」に対する声からです。このテーマは情報処理技術の花の1つですから、ご興味のある方は多かったろうと想像いたします。以下のようなご感想・ご意見がありました。

□ 今回の「マルチメディア符号化技術の動向」は、細部のテクニックの解説に陥没することなく、また広い適用分野の話に発散することなく、よく企画され、まったく適任と思われる方が担当されたすばらしい特集でした。コンピュータ処理は何でもそうですが、多次元情報を1次元のビットストリームに変換して処理しようとしているので本質的な無理があるようにも感じます。情報圧縮以外にも別の考え方があってもよさそうに思いますが、あったら紹介してほしいと思いました。

(藤井靖治)

次は、解説「音声ワープロ—過去・現在・未来—」および解説「電脳文章要約術—計算機はいかにしてテキストを要約するか—」に関するご意見や関連した特集テーマのご要望です。本記事や4月号の特集「フィールドを広げる自然言語処理」等で解説されている(夢の?)音声・言語処理技術も最近では身近になってきた感じがします。今後とも最先端の技術をタイムリーに特集・解説する予定ですのでご期待ください。

□ 今回の音声認識に関する記事を楽しく拝見した。従来より認識処理、特に手書き文字や音声等は100%の認識をすることが非常に難しいとされている。よくても90数%である。その難しさの原因は何なのか素人にも分かるような記事を期待する。

(石戸谷 光昭)

□ 「電脳文章要約術」はまだ完成した手法もないようですが、現状がよく理解でき、その必要性も分かりました。ただ、会話が要約しにくいという指摘はまったくそうだろうと思いますが、処理技術が未熟と卑下するだけでなく、要約するに値するテキストが持つべき最低条件は何かという点も主張されてよいのではないのでしょうか。結婚式のスピーチを録音して後で聞き直すとか何を言っているのか分からないのが大半だそうです。

「音声ワープロ」は現在お世話になっていますので面白く読ませてもらいました。ですが、マイクよりもキーのほうが使いやすいですね。1970年頃、IBMの南仏の研究所を訪問したとき、

電話を音声でかけるのを実際にデモして見せてもらったことがありました。言葉は英語とフランス語で確か、S360を使っていたと思います。ずいぶんと時間も経過していますが、進歩したものです。

(藤井靖治)

□ 現在実用化されている、または実用化されつつある音声認識や画像認識技術の応用例の特集をお願いします。

(川上好弥)

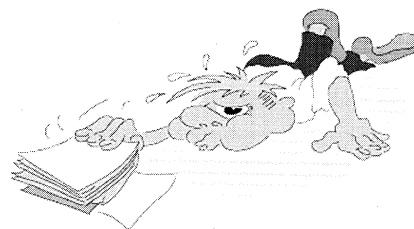
連載「コンピュータと通信」の「光ソリトンと波長多重」に関しては、思い入れのあるご感想をいただきました。

□ 2月号、鈴木正敏氏の論文「光ソリトンと波長多重」にはいろいろ思い出があり、楽しく読んだ。

光ソリトンの通信利用を最初に提起された長谷川晃氏は、当時のAT&Tベル研の同僚、米人研究者から「クレイジーだ」と批判された。でも、実証してくれたのも、その同僚だった。長谷川氏はこの研究で英国の勲章を受けた。サッチャー首相にご進講の際、首相は最初は無関心だったが「海中にもソリトンが存在し、油井を破壊することもある」との話になると「潜水艦攻撃に使えないか」と急に真剣になったと聞いた。どちらも日本ならどうだったか?

ソリトンの光源開発で鈴木氏は、波を飛び出させる「凸」ではなく、切り取る「凹」で安定的な光源を得た。また、KDDが開発した変調器をベル研は受信器で使っていた。ならば発信器でどうか? いわばDH専門の打者を捕手に使ったのがベル研で、鈴木氏は投手にコンバートして成功した。どちらも逆転の発想だった。新庄のコンバートは成功するだろうか?

この取材中に、ジェイムズ・グリックの「カオス」を読んだ。自然科学・技術系の本は1万部でベストセラーだが、15万部と聞いて驚いた。しかし、本家米国では500万部と聞いて驚きを



超えた。人口は日本の倍だが、好奇心のスケールは違った。ファインマンの伝記にも感ずるところあり、メディアで若者の好奇心を喚起しようとして果たせなかった。ならば大学で、との思いもかなわない。江戸末、明治にはあった好奇心はどこへいったのか。(森本英之)

連載「インタラクティブ・エッセイ」は相変わらず人気が高いようです。

□ 今月も「インタラクティブ・エッセイ」が面白かった。私は、田浦さんの「現状の最も大きな問題点は、アプリベンダ、プログラマ、言語屋を含めあらゆるソフトウェア開発者に対して、選択の余地が与えられていないことだと気づく」という意見に賛同します。付け加えていうならば、言語屋、論理学者、文法学者などソフト関係者の意気地がなさ過ぎるというのを付け加えたいと思います。並列コンピュータとSMPだけです、という第三者が現れてきてもよさそうに思いますが。

(藤井靖治)

『道しるべ』に関しては、以下のようなご要望がありました。

□ 『道しるべ』に、ホームエレクトロニクス製品が相互に接続するためのインタフェース規格IEEE1394を取り上げて欲しいです。(匿名希望)

『道しるべ』は「これから研究に着手する人」を主な読者として想定しており、アカデミック寄りのテーマを対象としてきました。しかし、このご要望は開発の現場に近いもっと広い範囲のテーマを扱ってもよいのではないかとのご提案と解釈いたしました。たいへん参考になるご意見ですので、今後検討していきたいと思います。

□ 『道しるべ』のテーマですが、たとえば皆さんは欲しい情報をどのようにして探し当てているのか。いわゆる検索エンジン

ではなく、How toとしての情報検索技術に関して取り上げていただけるとうれしいです。(匿名希望)

3月号の会員の広場でも「よい研究者になっていくためのHow toの紹介」というご要望を紹介させていただきましたが、『道しるべ』の内容を一般化してほしいというご要望が多いようです。しかし、一般論を具体的（すぐに役立つよう）に紹介することはたいへん難しいですので、当面は特定分野におけるHow toを具体的に紹介するということを目指しております。今後、『道しるべ』が回を重ねれば、情報処理関係のテーマ一般に共通するHow toが見えてくる可能性もありますので、その際はぜひまとめさせていただきたいと思います。

最後に、具体的な解説・特集テーマのご要望です。

□ 21世紀初頭における大学・大学院における情報処理教育について、文科系を含む全学的な一般教育（コンピュータリテラシ、情報リテラシ、ネットワークリテラシ等）、計算機・情報専門課程における教育のあり方、具体的提言の特集をお願いいたします。(匿名希望)

□ 最近、データウェアハウスの分野でOLAPなる、RDBを拡張したような手法が話題となっているようですが、これを取り上げてもらえないでしょうか。RDBとどこが違うのか、OLAP何ができるのか、またOLAPの基本概念と実仕様はどのようなものなのか。ぜひ知りたいと思います。(匿名希望)

2月号のコメントを受け付ける期間が年度末であったにもかかわらず、今回もたくさんのコメントをいただきました。お忙しい中、コメントをお寄せくださった方にはお礼申し上げます。3月号以降に対するコメントもまた続々と入ってきておりますので、皆様も奮ってご意見・ご感想・ご要望をお寄せください。

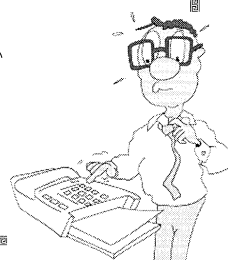
【本欄担当 大久保隆夫・山本幹雄／書評・ニュース分野】

ご意見をお寄せください!!!

皆様にとって会誌をより役立つものとするため、
・記事に対する感想、意見
・記事テーマの提案
・会誌または学会に対する全般的な意見、提言
・その他、情報処理技術についての全般的な意見、提言
など、自由なご意見、ご感想をお待ちしております。
前号に引き続き、今月号でも『道しるべ』に取り上げて欲しいテーマ』についてのご意見をお待ちしております。

掲載させていただいた方には薄謝を進呈いたします。掲載に際しては、編集の都合上、ご意見に手を加えさせていただくことがあります。あらかじめご了承ください。

応募先 〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F
情報処理学会 会誌担当 E-mail:editj@ipsj.or.jp
Fax(03)5484-3534 <http://www.ipsj.or.jp/magazine/an4005.html>



IPSJカレンダー

行事名	会場名	開催日	参加締切	論文/応募締切	掲載頁	担当
第118回データベースシステム研究会	NTTデータ	5月17日 (月)	当日のみ		40-4 会6p	研
第54回情報学基礎研究会	NTTデータ	5月17日 (月)	当日のみ		40-4 会6p	研
第32回グループウェア研究会	情報処理学会	5月19日 (水)	当日のみ		40-4 会7p	研
通常総会	ニューサテライト ホテル芝浦	5月20日 (木)			40-5 会4p	総
第125回計算機アーキテクチャ研究会	東大	5月21日 (金)	当日のみ		40-4 会7p	研
第52回コンピュータと教育研究会	東京外語大	5月21日 (金)	当日のみ		40-4 会7p	研
第42回人文科学とコンピュータ研究会	ATR	5月21日 (金)	当日のみ		40-4 会8p	研
第13回分散システム/インターネット運用技術研究会	東芝	5月21日 (金)	当日のみ		40-4 会8p	研
第5回コンピュータセキュリティ研究会	情報処理学会	5月21日 (金)	当日のみ		40-4 会8p	研
第4回電子化知的財産・社会基盤研究会	成蹊大	5月22日 (土)	当日のみ		40-5 会4p	研
第116回知能と複雑系研究会	情報処理学会	5月24日 (月)	当日のみ		40-4 会9p	研
システムLSIシンポジウム	中央大	5月25日 (火)	5月 7日 (金)		40-3 会6p	研
第18回デジタル・ドキュメント研究会	情報処理学会	5月27日 (木)	当日のみ		40-4 会9p	研
第131回自然言語処理研究会	千葉工大	5月28日 (金)	当日のみ		40-4 会9p	研
第26回音声言語情報処理研究会	千葉工大	5月28日 (金)	当日のみ		40-4 会9p	研
第9回モバイルコンピューティング研究会	情報処理学会	5月28日 (金)	当日のみ		40-4 会9p	研
第30回音楽情報科学研究会	沖縄県立芸術大	5月29日 (土) ～30日 (日)	当日のみ		40-4 会10p	研
第25回オーディオビジュアル複合情報処理研究会	北大	6月 4日 (金)	当日のみ		40-5 会4p	研
1999年並列処理シンポジウム JSPP'99	つくば国際会議場	6月 9日 (水) ～11日 (金)	5月28日 (金)	平成10年 12月14日 (月)	40-5 会7p	研
第24回プログラミング研究会	情報処理学会	6月17日 (木) ～18日 (金)	当日のみ		40-5 会4p	研
第1回ゲーム情報学研究会	静岡大	6月24日 (木) ～25日 (金)	当日のみ		40-5 会4p	研
グラフィックスとCAD/Visual Computing合同シンポジウム '99	阪大	6月24日 (木) ～25日 (金)		2月26日 (金) 必着	40-5 会8p	研
マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOM '99) シンポジウム	ホテルシーモア	6月30日 (水) ～7月 2日 (金)	6月10日 (木)	3月 8日 (月) 必着	40-5 会8p	研
DAシンポジウム '99	遠鉄ホテル エンバイア	7月15日 (木) ～17日 (土)	6月22日 (火)	3月10日 (水) 必着	40-5 会11p	研
オブジェクト指向 '99シンポジウム	東工大	7月21日 (水) ～23日 (金)	7月9日 (金)	2月12日 (金)	40-5 会13p	研
Fifth Annual International Computing and Combinatorics Conference (COCOON '99)	東京周辺	7月26日 (月) ～28日 (水)		2月 8日 (月)	39-11 本1186p	研
夏の情報教育シンポジウム	長野県坂井村	7月28日 (水) ～30日 (金)		4月30日 (金) 必着	40-2 会22p	研

行事名	会場名	開催日	参加締切	論文/応募締切	掲載頁	担当
夏のプログラミング・シンポジウム 「21世紀の夢」	リフレ富岡	8月18日（水） ～20日（金）	6月30日（水）	5月30日（日）	40-4 会22p	事
東北支部 平成11年度電気関係学会 東北支部連合大会	八戸	8月19日（木） ～20日（金）		6月15日（火） 必着	40-5 会15p	東
東海支部 平成11年度電気関係学会 東海支部連合大会	中部大	9月 5日（日） ～6日（月）		6月25日（金）	40-5 会16p	海
サマーワークショップ・イン・小樽	小樽近辺	9月 9日（木） ～10日（金）		7月16日（金）	40-5 会14p	研
人文科学とコンピュータシンポジウム （じんもんこん1999）	国立民族学博物館	9月17日（金） ～18日（土）		5月 7日（金） 必着	40-2 会22p	研
情報処理学会第59回全国大会	岩手県立大	9月28日（火） ～30日（木）		6月25日（金）	40-5 会6p	事
第5回ゲーム・プログラミング・ ワークショップ	箱根セミナー ハウス	10月15日（金） ～17日（日）		6月26日（土）	40-4 会27p	研
アジア太平洋ソフトウェア工学 国際会議（APSEC '99）	高松	12月 7日（火） ～10日（金）		6月15日（火）	40-4 会28p	研
論文誌投稿締切		発行予定月		論文/応募締切	掲載頁	
論文誌特集号「グラフィクスと画像コンテンツ生成の新展開」		平成12年3月		8月31日（火）	40-5 会14p	編
論文誌特集号「システムLSIの設計技術と設計自動化」		平成12年4月		9月17日（金）	40-5 会14p	編

記1) カレンダーは本会主催・共催の行事を会告既掲載分より抜粋しています。
 記2) 研究会の発表申込締切は開催日の90日前です。年間予定表および研究会発表申込書は2, 4, 8月号付録（会告）に掲載されています。
 記3) 担当欄の記号は次のとおりです。研: 調査研究, 事: 事業, 国: 国際, 編: 編集, 総: 総務, 経: 経理, 会: 会員,
 規: 情報規格調査会, 北: 北海道支部, 東: 東北支部, 海: 東海支部, 陸: 北陸支部, 西: 関西支部, 中: 中国支部, 四: 四国支部, 九: 九州支部。
 各行事についての問合せ等は担当までお願いします。
 記4) 掲載頁欄の記号は次のとおりです。本: 本誌, 会: 会告（付録）, 全: 全国大会プログラム（付録）

**ご意見を
お寄せください！**

【できるだけ月末までにお出しく下さい】

宛 先 (社) 情報処理学会 モニタ係 (下記のいずれからも送付できます)
Fax(03)5484-3534 E-mail:editj@ipsj.or.jp (eコードでお答えください)
http://www.ipsj.or.jp/magazine/an4005.html
〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F

1. あなたはモニタですか？
a. はい b. いいえ(eコード 1-)

2. 今月号(1999年5月号)の記事についてのあなたの評価をご記入ください。
(あなたの評価は年度のBest Author賞選定の際の資料となります。評価は以下の5段階評価をお願いします。)
a...大変参考になった b...よい c...普通、どちらとも言えない d...悪い e...読んでいない

【特集】西暦2000年問題に全力で取り組もう

- 我が国における西暦2000年問題対応の状況(eコード 2-1-)
西暦2000年問題の技術的課題(eコード 2-2-)
西暦2000年問題の法的課題(eコード 2-3-)
西暦2000年問題の理解を深めるために(eコード 2-4-)

【情報処理最前線】

- デジタルコンテンツの権利保護と流通(eコード 2-5-)

【事例】

- 美術品デジタルアーカイブの構築と事業運用(eコード 2-6-)

【トップインタビュー】

- デジタルコンテンツ事業の可能性と情報技術への期待(eコード 2-7-)

【解説】

- インターネットのための音声処理技術(eコード 2-8-)
軽量クライアント・コンピューティングとアクティブオフィス(eコード 2-9-)
「ここまで来たワークフロー管理システム」3. ワークフロー製品の実際(eコード 2-10-)
やさしいハードの話:「はんだ」の話(eコード 2-11-)
「顧客満足」時代の情報システム SFA(eコード 2-12-)

【連載】

- 携帯電話の科学:次世代移動パケット網のアーキテクチャ(eコード 2-13-)
放送と情報処理:コンピュータ化されたTV受信機(eコード 2-14-)
コンピュータと通信:遠隔医療システム(eコード 2-15-)
インタラクティブ・エッセイ:組込みソフトウェア分野における産学間のギャップを埋めよう(eコード 2-16-)

【コラム】

- 情報セキュリティ歳時記:あなたが加害者になる可能性(eコード 2-17-)
情報技術の新時代に向けて:次世代インターネットプロジェクトの研究の動向(eコード 2-18-)
IPネットワーク革命:IPで創る次世代通信インフラ像(eコード 2-19-)
現代・コンピュータ市場:インターネット社会の覇権争い(eコード 2-20-)
本当のインターネットをめざして:ネットワーク技術の発展の弁証法的考察(eコード 2-21-)

【道しるべ】

- 組込みシステムの設計技術とその研究(eコード 2-22-)

3. 特に興味を持ってお読みにになった記事・著者への質問・取り上げて欲しいテーマなどをお書きください。(eコード 3)
また今月も「道しるべ」に取り上げてほしいテーマを募集しています。

4. あなたのご意見は「会員の広場」に掲載される場合があります。その場合、
a. 実名可(氏名のみ掲載) b. 匿名希望(eコード 4-)

5. (a) ご氏名 (eコード 5-1)

(b) ご所属 (eコード 5-2)

Tel () -

■ 編集室 ■

編集委員会で「西暦2000年問題」をどのように捉えるべきか議論になった。マスコミや書籍などの記事は危機を煽るかのような論調に事欠かない。しかし、私たち会員は、いわば当事者である。実際に「西暦2000年問題」対応に日夜苦勞されておられる方もあるだろう。直接には従事していなくても、家庭や職場、会合などで意見を求められることもあろう。本特集号では、情報処理学会会員がこの問題に「理性的」立場をとり、「情報技術に対し社会の誤解や不信感を招かないように取り組む」ことを呼びかけたい。

「西暦2000年問題」の報道などで感じるのは、情報処理技術、とりわけソフトウェア技術が一般にはまだよく理解されていないことである。情報処理学会は、会員だけではなく、一般の人に対

する情報技術の啓蒙や積極的な情報提供、説明 (accountability) も必要ではないかと思われる。このような観点から、今回初めて、特集号の記事を基に、本誌の発行とはほぼ同時期に一般に入手可能な廉価な書籍として刊行するよう準備している。その後、Web上でも公開する予定である。本誌とあわせて活用をお願いしたい。

ところで、この雑誌と書籍を同時並行して刊行するプロセスは、「情報処理」が学会の編集スタッフによりDTPソフトウェアを用いてすべて電子編集されていることから初めて可能になった。情報処理学会も情報技術を活用しているのである。

(青山 幹雄／本特集エディタ)

次号 (6月号) 予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

「特集」ソーシャルインタラクション

コミュニケーションを軸とした新しいシステム知のあり方—認知科学的な視点から—／Designing for Social Interaction in Cyberspace／協調行為をどう捉えるか—“相互作用”的視点と“相互依存構造”的視点—／意見が違うから、学び合える—非合意形成的共同学習支援—／グループには頭がない—ソーシャルインタラクションを支援するための概念的枠組みとシステム—

事 例

モバイル上での既存システムの有効活用片岡 玲

解 説

MPEG小型ビデオカメラの開発—ここまできたMPEG実用化技術—今出宅哉

緩和される暗号輸出規制 (前編) : 米国の暗号技術輸出規制の変遷と展望前川 徹

緩和される暗号輸出規制 (後編) : 国際的合意と日本の役割近藤賢二

実世界での遺伝的・進化的アルゴリズムDavid.E.G. (翻訳: 安達統衛)

道しるべ

遺伝的アルゴリズムを使いこなすには寺野隆雄

連 載 インタラクティブ・エッセイ／携帯電話の科学／コンピュータと通信／放送と情報処理

コラム IPネットワーク革命／現代・コンピュータ市場／情報技術の新時代に向けて／情報セキュリティ歳時記／
本当のインターネットをめざして

事務局本部

〒108-0023 東京都港区芝浦 3-16-20 芝浦前川ビル 7F

Tel(03)5484-3535 Fax(03)5484-3534

URL-http://www.ipsj.or.jp/

郵便振替口座 00150-4-83484

銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧業銀行虎ノ門支店 1013945

東京三菱銀行虎ノ門公務部 0000608

名義人 社団法人 情報処理学会

規格部

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3

Tel(03)3431-2808 Fax(03)3431-6493

E-mail:standards@itscj.ipsj.or.jp

支 部

北海道／東北／東海／北陸／関西／中国／四国／九州

複写される方に

Ⓔ <学術著作権協会依頼>

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外は、著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体から許諾を受けてください。著作物の転載・翻訳等複写以外の許諾は、直接当学会へご連絡ください。

〒170-0052 東京都港区赤坂 9-6-4I 乃木坂ビル 3F 学術著作権協会

E-mail:kammori@msh.biglobe.ne.jp Tel(03)3475-5618 Fax(03)3475-5619

ただし、アメリカ合衆国における複写については、下記のIn the USAに記載の所へご照会ください。

Notice about Photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization, which has been delegated for copyright for clearance by the copyright owner of this publication.

Except in the USA

Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC)

41-6 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052, Japan

E-mail:kammori@msh.biglobe.ne.jp Tel: 81-3-3475-5618 Tel: 81-3-3475-5619

In the USA

Copyright Clearance Center, Inc. (CCC)

222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923, USA

Phone: (978)750-8400 Fax: (978)750-4744 http://www.copyright.com.

40巻5号掲載広告目次<五十音順>

イムカ	前付5下
インタフェース	表3
オーム社	前付2
昭晃堂	前付3上
情報処理振興事業協会	表4
ソフト・リサーチ・センター	前付4上

東京コンサルティング	前付最終
トライテック	前付5上
日本データパシフィック	表2
日本電子化辞書研究所	目次前
培風館	前付4下
連続セミナー99	表2対向

◆広告料金表

掲載場所	色	スペース	料金(円)
表紙2	4	1	330,000
表紙3	4	1	275,000
表紙4	4	1	385,000
表2対向	4	1	300,000
前付	4	1	275,000
前付	2	1	165,000
前付	1	1	135,000
前付	1	1/2	80,000
前付最終	1	1	148,000
目次前	1	1	148,000
差込み (A判70.5kg未満)		1丁	275,000
差込み (A判70.5kg～86.5kg)		1丁	350,000

◆体裁

判型	A4判
発行部数	35,000部
発行日	毎月15日
印刷方法	オフセット

◆広告原稿

申込締切日	前月10日
原稿締切日	前月20日
原稿寸法	1P 天地260mm×左右180mm 1/2P 天地125mm×左右180mm
原稿形態	ポジフィルム

*上記料金には、消費税は含まれておりません。断切広告は上記料金の10%増です。

*広告は、コート紙を使用して印刷いたします。

*表紙4のサイズは、天地260mm×左右180mmです。

◆広告申込先／カタログ・資料請求先

(社)情報処理学会 会誌編集担当 〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F
E-mail:editj@ipsj.or.jp Tel(03)5484-3535 Fax(03)5484-3534

「情報処理」カタログ・資料請求用紙		Vol.40 No.5	
掲載広告のカタログ・資料をご希望の方はこの用紙をFAXするか、またはE-mailでご請求ください。			
☐ イムカ ☐ インタフェース ☐ オーム社 ☐ 昭晃堂 ☐ 情報処理振興事業協会 ☐ ソフト・リサーチ・センター ☐ 東京コンサルティング ☐ トライテック ☐ 日本データパシフィック		☐ 日本電子化辞書研究所 ☐ 培風館	
勤務先／学校名 部課／学科			
所在地			
ご芳名	年齢	電話	
あなたの勤務先に該当するものに○印を <業種> 1.コンピュータ製造業 2.電気通信関係製造業 3.通信関係製造業 4.ソフトウェア業 5.官公庁 6.学校 7.その他 <職種> 1.研究・開発 2.SE・プログラマ 3.製造・生産 4.企画・調査 5.営業販売 6.総務・経理 7.会社役員 8.その他			